

1 令和6年度第2回 静岡市農業振興協議会会議録

1 日 時 令和7年3月12日（水） 11時00分～12時15分

2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 8階 会議室

3 出席者 (委 員)

森田会長、石切山副会長、三津山副会長、小田巻委員、
佐藤委員、竹内委員、徳田委員、中尾委員

(事務局)

大村農林水産統括監、太田農林水産部長、島津農業政策監、
花村農業政策課長、遠藤農地利用課長、石田農地整備課長、
岡本中山間地振興課長、石川お茶のまち推進担当課長、
石川課長補佐、水嶋参事兼係長、宇佐美係長、永野主任主事、
岡部主任主事

4 傍 聴 者 0人

5 次 第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

第2次静岡市農業振興計画進行管理

① 令和7年度の取組について

② 個別成果指標の変更について

(4) その他報告事項

(5) 閉会

6 会議内容

○ 開会 会議成立の報告（委員9名中8名出席により、会議は成立）

(事務局)

「①令和7年度の取組について」を資料1・2・3により説明

(森田会長)

事務局からの説明を受け、これまでの幅広い施策ではなく、市が本市農業をどのような方向に進めていきたいのかが明確になってきているように感じました。

各委員より質問等ありましたら、ご発言をお願いします。

(中尾委員)

静岡県においても、お茶の輸出関係などに注力していきますので、市と連携を図りながら進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。質問が3点あります。1点目に資料6ページのトレーニングファーム事業の担い手の育成目標を教えてください。2点目に資料10ページの農地集約化促進事業について、静岡市土地等利活用推進公社との連携イメージがあれば教えてください。3点目に資料13ページの丸数字(○)の記載がない事業はどのようなものか教えてください。

(事務局)

1点目のトレーニングファーム事業について、本事業では研修施設の面積を就農時とほぼ同じ面積で行うことを想定しています。研修が終わったら同じ面積で日々同じ作業ができることを目標としています。その面積を用意することを考えると、それぞれ2人分ぐらいの面積が何とか確保できそうですので、まずは2人から始めていく予定をしています。

2点目の公社との関係について、農地集約については、農地の集約と合わせて企業立地のための土地の集約を並行して行っていくことを考えています。まずは、地域計画策定時に農業者を対象とした意向調査のデータと、企業立地においては企業が進出希望地域を調査し、重なり合ったエリア等をいくつか選定していく予定です。次に、そのエリアの土地の地権者の方に意向調査を行い、土地の有効利用について地元説明会を開催する等し、ご意見を丁寧に伺いながら進めていきたいと考えています。その中で、公社においては、方向性が見えてきた段階で地権者の方の意向を伺いながら、農地を集約するエリアや企業立地エリアなどの調整をしていく予定です。農業部門と企業立地部門と公社が連携し、お互いにwin-winになるような形で集約を進めていきたいと考えています。

3点目の土地改良事業について、丸数字(○)の記載がない事業は、小規模基盤整備事業を示しています。

(竹内委員)

有機農産物を給食で提供するのはとても良いことだと思います。給食提供する際は、有機農産物は、こういうわけで体に良いよとか、どのように育てて皆さんの元に届いているのかなど、そういう説明をしっかりとさせていただきたいです。そうすることによって、子供たちは良さ等をしっかり頭に入れて食べてくれると思います。

また、海外に輸出する品物についても、商品の背景やストーリーを伝えることで商品価値を分かっていただくことが非常に重要です。説明が無いと値段が高く感じてしまったり、手に取っていただけなかったりすると思います。静岡といえばお茶、お茶はこういうところが良いよ、美味しいよと自信を持って周知してほしいし、宣伝できる人がいると良いと思います。それともう一つ、抹茶については、お茶をたてる先生がいるので、その先生にお茶会等協力いただくことも良いですし、日本茶インストラクターの方もいますので、静岡市の美味しいお茶を引き続き提供していただきたいと思います。

(佐藤委員)

資料3ページの予算の内訳を見ると、農地整備の予算割合が3割程ありますが、私の農園近隣では農地整備が行われたところをあまり見かけません。資料13ページを見ると、清水区や日本平周辺で農地整備が多く行われており、今後はオクシズ地域でも農地整備を進めていただきたいと思います。

また、碾茶については、今の需要の動きを見てると、静岡市内でも生産を始めた方が良いと思いますが、生産量では鹿児島県に劣ると思います。京都にはブランド力や品質で勝つことは現状では難しいと感じています。静岡市内で抹茶を作る中では、どんなところに強みがあるのかなと疑問に思います。今は需要があるので、作れば売れるかもしれませんが、碾茶工場の整備で終わるのではなく、抹茶の需要が減ってきたとしても、持続できるようにブランディングなども含めて支援していただきたいと思います。それから1点質問です。資料8ページの輸出拡大事業について、茶業者とは農家、問屋どちらのことでしょうか。

(事務局)

静岡市産のお茶を扱う農家、問屋両方のことです。

(佐藤委員)

個人の農家が輸出まで行うことは難しいので、問屋さんに頑張ってほしいと思います。また、これから一番茶が出てくる中で、荒茶単価の動向に応じて農家は生産を考えていきます。例えば、半年後の秋頃に輸出拡大と言われても生産者支援には繋がらないので、荒茶単価を注視して支援していただきたいと思います。

(小田巻委員)

私が勤めるところでは、地域の子供会等とサツマイモ掘りをするなど、地産地消や食育の取組を行っています。また、地域の農地では、シカやイノシシ、サルなど鳥獣害被害が多く出ていますので、対策強化を図っていただきたいと思います。

(石切山副会長)

JAでは女性部を中心に、食農教育といって学校に出前講座などを行い、子供達に生産過程などを説明するなど食育に力を入れています。引き続き取り組んでいきますので、市にも協力いただきたいと思います。

(三津山副会長)

資料5ページの有機農業推進事業について、有機残渣の活用とあります。これは国のみどりの食料システム戦略からきていると思いますが、食品ロスの削減につながる取組だと思います。現状、生ごみの処分費が多額の中、将来的に、ごみの分別を細かくして、活用していく考えがあるか教えてください。

(事務局)

現在は、市民から出た生ごみなどの活用は考えておらず、JA や民間事業者から出る食品残渣を活用した堆肥の試作を想定しています。市民から出る生ごみの活用について資源業者等とも協議・検討しましたが、色々な物が混ぜこぜになった原料から肥料を作ることは、成分が不均衡になるなど課題があり、有機肥料にすることは非常に難しいと認識しています。まずは、単独の野菜などの活用から取り組んでいきたいと考えています。

(徳田委員)

静岡市は農地面積が小さい小規模農家が点在しており、市街化農地も多いです。地産地消や食料供給の観点で寄与していますので、都市農家、都市農業にも、もう少し目を向けていただきたいと思います。

(森田会長)

先ほど食育の話がありましたが、例えば、学校で取り組む農業に有機栽培を取り入れることも良いと思います。教育部局など関係部署との調整が必要だと思いますが、そういう視点での取組も考えていただければと思います。

では、次の議題に移ります。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「②個別成果指標の変更について」を資料4により説明

(森田会長)

2つのサイトの所管・運営はどこになりますか。

(事務局)

どちらとも静岡市（農業政策課）が運営しています。

(森田会長)

指標の目標達成に向けて、ぜひ魅力あるサイト作りを進めてほしいのと、このサイトを多くの方に知っていただく取組に注力してほしいと思います。

事務局からの説明に対して、質問等がありましたらお願いします。

(中尾委員)

指標のアクセスユーザー数は、延べ数ではなく実数ですので、非常に良い指標だと思います。現在の指標が首都圏における認知度とありますので、現状においてアクセスユーザー数における市内外の割合が分かれば教えてください。

(事務局)

市内外の割合は、システム上分かると聞いていますが、手持ち資料が無く回答しか

ねる状況です。引き続き、多くの方が本サイトを見ていただけるよう取り組んでいきます。

(森田会長)

次回の協議会では、令和6年度実績の報告があると思いますので、その際に併せてお答えいただければと思います。

(佐藤委員)

「お茶のまち静岡市」のサイトを通じて、私の茶園の体験プログラムの申し込みがあり、ありがたく思います。引き続き周知をよろしくお願いします。

また、最近、農業関係の資機材が高騰しています。物価に合わせて、助成制度の見直しを検討していただけるとありがたいです。

(森田会長)

それではその他質問等もないようですので、第2回農業振興協議会を閉会します。